(様式第9号)

高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

令和7年2月3日作成

会議の名称	令和6年度 高槻市立第十中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和7年2月3日(月) 18:30~20:15		
会議の開催場所	高槻市立第十中学校 図書室	公開の可否	可
担当課	教育指導課・教育総務課	傍聴者数	0人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)			
出席委員	三川俊樹、飯塚宏平、田中啓子、吉川明、重松良之、石井英真 宮田佳代子		
事務局出席者	(第十中) 宮崎義之、古家昭二、西村祐輔、窪田恵美子、村上千恵 (竹の内小) 富永崇、黒木慎介、土谷定義、伊藤初美、青木奈津子 (桜台小) 丸山みち子、西山高史、松下裕香、西田淳一		
会議の議題	1. グランドデザインに基づいた第十中学校区の活動状況及び評価について 2. 質疑応答と意見交流 3. その他		
配付資料	資料1 学校運営協議会委員名簿・事務局名簿 資料2 令和6年度 第十中学校区グランドデザイン 資料3 今年度の第十中学校区の活動状況および評価		
審議等の内容	・学校運営状況報告と協議		

(別紙)

高槻市立第十中学校区運営協議会 会議録

1. 開会	校長 あいさつ 委員及び事務局出席者の紹介 傍聴希望者→なし
2. 議題 1	(議案 1) グランドデザインに基づいた第十中学校の活動状況及び評価について 学校(校区、各校)より説明
3. 議題 2	(議案 2) 質疑応答と意見交流 〈質疑応答内容〉 委員 子どもたちが何のために役立つかわからないと言っているキャリア・パスポートの具体的な内容と、先生たちが何に役立つと思っているか教えてほしい。 学校 キャリア・パスポートは1年間のはじめに目標を立て、1年間で取り組んだ行事や活動を通して自分が考えたことや行ったことの振り返りをしています。また前期後期の学期ごとの振り返りや、1年間の振り返りをするのにも活用しています。さらに保護者の方にキャリア・パスポートを見てもらい、1年間の活動を認めてもらうための1つの手立てとしています。 委員 キャリア・パスポートは小1から中3まで？ 学校 高校までです。 校区としては実際に9年間を見通して、どんなふうがんばってきたか振り返られるものとして使われています。 委員 それ子どもたちはどのように役立つかわからないと言っており、どのように役立つのかということ子どもたちに伝えているのか。学年に応じて異なると思うが教えてほしい。

学校	<p>どのように役に立つかということは本人の使い方次第なところはあるが、キャリア・パスポートは積み重なっていくので、いつでも振り返られる。1つのファイルになっているので、次はどんなふうに通そうというように使うことができる。</p>
委員	<p>主体的に学習する力の育成のところで「ICTを使った学習は楽しくわかりやすい」とあるが、オクリンクなどで調べたりして学校では使うと思うが、家に帰ればフリーで使える。ChatGPTなどが普及してきて、検索をしたりしたら要約が出てくるが、半分ぐらいしか合っていないときがある。情報は自分で取捨選択しないとだめということをお中学校のうちにわかっておかないといけない。サマリーが出てくると自分の頭を使わない。大学や高校でレポートをするときに、AIに頼っているという話も聞く。学校でオクリンクを使ってやることだけでなく、家庭でどうやってインターネットを使うのかを教えないとICTの学習ではないと思う。リテラシーということをお教えていかなければならない。そのために先生はICTリテラシーや何が流行っているかということも知っておかなければならない。クラスみんなで同じ単語を調べてみても、それぞれちがうことを調べてくると思うので、多様性を知ることができる。今後はそういうことも求められるのではないかと思う。</p>
学校	<p>ICTリテラシーの話で、たとえばChatGPTの対象年齢は13歳以上。生成AIについては、例えば、生成AIで作成した資料について、正しいところと正しくないところをお考えさせる授業を見たことはある。授業を通して、情報を鵜呑みにするのではなく、確認することの大切さを学ぶ授業でした。また、情報については、与えられるものではなく、自分たちで取りに行く時代になっている。ただ与えられる情報だけでなく、取りに行く情報には格差がある。そこをお埋めていくのが学校の仕事なのではないか。</p>
委員	<p>スマートニュースというアプリでニュースを見るが、自分の興味のあるものが集まってくる。例えばサッカーが好きなら、サッカーの情報しか出てこない。子どもたちはそれでニュースを知っているつもりだが、それは操られている。親世代と子どもとの情報のギャップを感じるので、小学生のリテラシーをみてみたい。</p>
委員	<p>子どもたちに「地底人がいるって知ってた？」とお聞かれたことがある。</p>

	<p>スマホなどで、もっともらしく出てきた内容を子どもたちが話してくる。アナウンサーらしき人が話しているの、子どもたちは信じてしまう。いろいろ突っ込んで話していくと、子どもたちは「え？ そうなん？」となるので、その子のわかる範囲での理解となってしまうので、こわい。</p>
学校	<p>生成 AI を今後どうしていくかは、私たちも研修をしていない。ライセンスはあるので、使っている教員もいるが、使っていない教員がほとんど。教頭会として AI についての研修を行っていく予定。今後 AI を使わずしていきましょうという世の中にはならないと思うので、どんなこわさがあるかを研修などで学んでいかなければならないと思う。今後あたりまえのように ICT を使っていくなかで、プラスの面も見ていかなければならないと感じている。</p>
委員	<p>画像検索しても、著作権の問題があるので、勝手にスクショをしてはいけないということを教えなければならない。マイクロソフトのワードに AI が勝手に装備されているので、開くとどんな文章が書きたいか聞かれて打ち込むと勝手に出てくるようになっている。学校だけでなく家庭でタブレットやインターネットを使うことがあるが、年齢制限関係なしに子どもたちは使っていることもあるので、本腰を入れて考えていかなければならないと思う。タブレット入力なんて社会人になれば何の意味もないので、キーボードで打てるようにタイピング能力も必要になってくる。将来役立ちそうなことをあえてやっていく。将来こんなことに役立つよということを伝えていくことが大事ではないか。その方が子どもたちも意欲がわくと思う。</p>
学校	<p>校内で ChatGPT など一番いじっているのは私だと思う。校内の校務分掌の中に学校安全教育部というものを作った。少なくとも中学校 3 年間でどのようなリテラシーをつけていかなければならないかということを考えることを今年度はじめた。まだなかなかできていないが、総合的な学習の時間などでパソコンに頼らずインタビューなどで一次情報を得ることのよさを感じてほしい。校内のほうで組織を変えながら対応をしている最中です。</p>
学校	<p>自分自身がもう少しさわれないと説明できないと思うので、教員内で研修が必要。子どもたちが将来関わっていく中でやらざるをえないことも</p>

	<p>ある。</p> <p>委員 ICTにも少しからむが、結局学校は知的で文化的でパブリック。デジタル環境といっても、知的で文化的でパブリックなデジタル環境とそうではないものもある。バスの中でスマホをさわってゲームをするのではなく、日経新聞を読むなどのちがい。タイピングの話などでいうと、休校期間中にみごとに差が出てきたと思う。大人のそこそこ知的で文化的でパブリックなデスクと同じようなことがギガスクールで行われている。結局子どもにも、大人の目線が必要。大学であれば論文を書いたとき口頭質問をすれば生成AIを使ったかどうかすぐわかる。教科書は読めども読めずだから、子どもたちの歴史認識を授業中に検討すればいい。その教科学習がファクトチェック。国語は読めども読むためにある。最大のファクトチェックの防波堤。情報収集するだけではなく、大人はそのあとまとめていく。どこで負荷をかけるかが大事。ICTは個別最適な学習で用いられるが、特に体育はICT使いたい放題。動きをカメラで撮って、自分の動きを確認できる。日本のバレーが何で強いかというとデジタルバレーであるため。ICTは学習ツールというものではない。総合的な学習の時間に関して言うと、地域の中にすごい世界とつながっている人がいるはず。自分の親とはちがう生き方をしている人がいることを知ることが大切。そうしたら自分たちもこんなふうになれるのではないかというイメージができる。困難を抱えている地域にはすごい人がいたりする。そういうところでICTをつなげていく。すると課題にあがっているところがちがって見えるかもしれない。</p>
	<p>委員 アンケートの結果を児童生徒にフィードバックして、意見を返してもらうのはとてもいい。気になるところは「授業がわかりやすく楽しい」というところで9割の肯定的回答があった。それでそれはどんな授業か聞いて、そんな授業をもっと進めたいということ saying だったので、100%を目指していると思う。厳しいことを言うが、ただここにはわかりやすく楽しいと答えていない児童生徒の声を拾えていない。なぜそう感じたかということを知るわけにはいかないが、そういう声を大切にしてほしい。キャリア・パスポートを作った立場の者から言わせてもらうと、キャリア・パスポートは今ここで何かの役に立つというものではない。将来の自分のために残しておく教材。学年の終わりなどに振り返っているが、もっと後になってから振り返ってみたときに今の自分と数年前の自分を比べてどう成長したかということを考える教材となる。たと</p>

	<p>えばある高知県の県立岡豊高校のロングホームルームで中学3年間のキャリア・パスポートを振り返る時間があった。生徒たちはキャリア・パスポートを見ながら、とても盛り上がる。また兵庫県でキャリア・パスポートの見直しをしている。総合学科があつてキャリア・パスポートを使って振り返る時間がある。高校1年生が小学校1年生のときの先生がかけてくれた言葉を改めて感じるができる。小学校の先生が残した言葉が高校生のために役立つ。そういう将来のために役立つ教材と言える。先生方のコメントが将来の子どもたちに届いている。大学生になったときに高校までのキャリア・パスポートを振り返って、いいキャリア教育を受けていたなと言いたい。キャリア・パスポートがどこでどんなふう活用されるかということが大切。</p>
委員	<p>小学校低学年ではキャリア・パスポートはこれは何かということの思うと思う。すぐに結果が出るものではないとのことで、今すぐ役に立つというわけではなく、数年後に気づくということで長期的な視点ということが分かった。アンケートに関してはどの観点でもプラスになっているので、単純に子どもたちも成長しているし、先生方もそれに対して支援していただいていると思う。ただネガティブなところがあれば教えてほしい。2回目ときの発表に学習支援を昼休みや放課後にしていると聞いたが、そこはとても評価している。ただやはり家庭学習は難しいと感じた。小学校では算数や漢字の宿題が出ているが中学校では特に出ないのでは自由裁量になるとできないという課題があるのではないかと感じる。こういうやり方でできているが、将来的に家で物事を考えるという習慣は必要なのではないかと感じる。</p>
委員	<p>自主的に課題に取り組むことについて何かつけたしがあれば。</p>
学校	<p>教職員がとても葛藤している。どこを大事にしていけばいいか。まず子どもたちが自分で問題を解決をしていくかということだが、基礎の定着が弱いと家庭で自力でできるかという課題もある。自分でやってみようという気持ちがないと、授業でやってみただけになってしまう。以前校区で研修があつたが、学年単位で集まってみると高学年でも九九の理解に課題があるということも出ていた。だからこそ低学年のうちに九九などの基礎学力の定着が必要となってくると感じた。その点では放課後などでやっている学習で力をつけてやりたい。そしてそれを子どもたちがおもしろいと感じるところまでもっていきたい。自分でやっ</p>

	<p>てみよう、できた、うれしいという経験をさせたい。自分で学んだ知識をプラスノートにつなげたい。学校で学んだことを自分で確認する、そこで学んだことを自分で学びに向き合う時間、選択する力というものが必要。その後、受験などにも自分が学びに向かうというところが必要になってくるので、家庭学習は必要だと考えている。</p>
学校	<p>家庭学習、宿題という捉えは、桜台小は明日までの課題という捉えをしている。家庭でもいいし、学校でもいいので、明日までに終わらせよう、ただどこでやるか自分で選択しようという機会を作っている。放課後学習や昼休みのオープンスクールなどを活用している児童も多く、子どもたちも選択しながらやっているという捉えをしている。</p>
学校	<p>委員のみなさんに聞きたい。安全安心のスライドの学校の分析考察のところで「学校では、いじめ防止について考える機会がある」という項目がなかなか保護者に浸透していないことがあげられていた。被害側が心身の苦痛を感じたらいじめと認定するなど法的なことが決まっているが、いまだに「これもいじめなのか」と聞かれることも多い。これを浸透させるにはどうすればいいか。事例などがあれば教えてほしい。</p>
委員	<p>難しい。社会人になったらパワハラなど当たり前にある。その認識がある保護者はその程度のものでいじめになるのかという認識を持つのはわかる。そうすると保護者に意識を変えてもらうしかないというところだが、残念ながらPTAという組織がなくなってきていて、研修会をするにも動員をかける手立てがない。子どもの認識を変えても、親の認識を変えないと意味がない。どうやっていけばいいかは、私には難しい。</p>
委員	<p>答えはないが、学校としては加害者側被害者側のそれぞれの意見を聞いて、このような対立関係を作りたくない、誰もが安全安心な場所をつくりたい、ということを伝えることが大事。自分の思いと行動にギャップがあって、そのギャップが相手にしんどい思いをさせていることを毅然とお知らせしないといけない。ただそうなる前に、「何かあったら相談しにおいでね。誰かにつながってね。」と担任でなくても、顧問でなくても誰でもいいのでつながっていてほしい。高校でもいじめの認定が何件か起きているが、「どっかにつながっておいてね」ということを生徒や児童にメッセージを送る。つながって苦しんでいることがわかったら、「君たちが活躍できる場を保証するからね」ということを伝えてい</p>

4. 閉会	<p>く。そういう形にならないようにするために全体に伝えていくことが大事。</p> <p>委員 1年目は校長が報告することが多かったが、今回は子どもたちの姿がより見える報告だった。子どもたちとの信頼関係が構築されているという発表内容だった。先生方がいかに子どもたちに肯定的に物事をとらえさせているかということがわかった。その結果がアンケートの結果につながっているのではないかと思う。このことを外に発信していくことが大切。視察の受け入れなどを通して、外部にこのような取組を発信することで認定評価してもらうことが先生方のエネルギーにつながっていくと思う。取組がマンネリ化してしまうことがあるし、アンケート結果が上がっていったら下がっていくという局面がいつかある。そういったことにならないような取組を今後も続けていってほしい。</p>
-------	--